

SmartPSS Lite

モニターソリューション編

目次

内容

1 概要	1
2 ライブビューページ	2
2.1 準備	2
2.2 ライブビュー	3
2.2.1 ビデオチャンネルを介したライブ表示	4
2.2.2 ライブツアープラン	10
2.2.3 ビューを介したライブ表示	12
2.3 PTZ設定	14
2.3.1 プリセットポイントの設定	14
2.3.2 ツアーの設定	16
2.3.3 パンの設定	18
2.3.4 スキャンの設定	19
2.3.5 パターンの設定	20
2.3.6 ワイパーの設定	22
3 再生ページ	23
3.1 基本操作	23
3.1.1 動画を再生します	23
3.1.2 パソコンで動画を再生します	26
3.2 その他の操作	26
3.2.1 スナップショットの表示	26
3.2.3 スマート検索	30
3.2.4 複数の動画再生を同期します	31

1 概要

モニターソリューションは、カメラとSmartPSSLiteを連携させます。SmartPSSLiteを介してリアルタイム監視画面をライブ表示できます。また、静止画や動画を再生することもできます。

NSK NSK NSK NSK NSK NSK

2 ライブビューページ

2.1 準備

カメラがSmartPSSLiteに追加されていることを確認します。

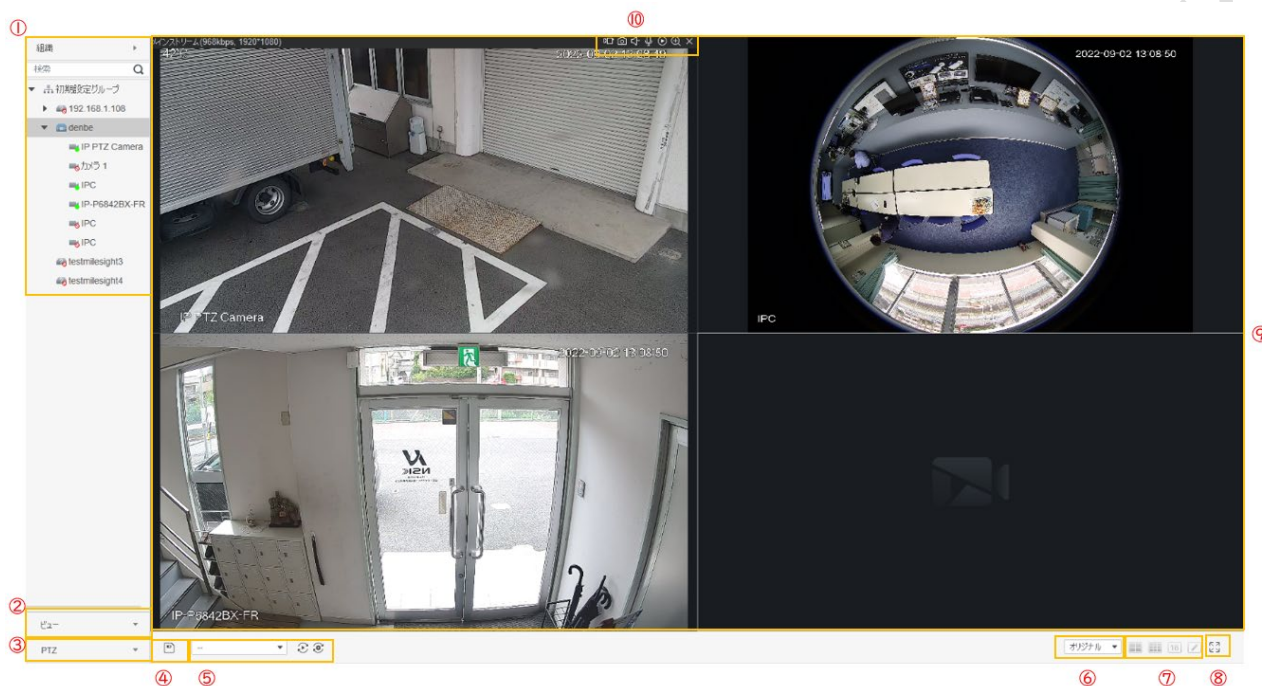


図2-1 ライブビューページ

表2-1 ライブビューパラメータの説明

番号	パラメータ	説明
1	組織	<ul style="list-style-type: none"> ⚙️ をクリックして、デバイスツリーを選択すると、デバイスは組織内のノードとして表示されます。 ⚙️ をクリックして領域ツリーを選択した場合、チャンネルは組織内のノードとして表示されます。
2	ビュー	リストビューを表示します。グループと保存されたビューです。ライブビュープランとして保存できます。ビューを選択すると設定したライブビューが呼び出されます。
3	PTZ	PTZ機能については、「2.3 PTZの構成」を参照してください。
4	ビューの保存	アイコンをクリックしてビュープランを保存します。
5	ツアービュー	ライブビューのツアープランを設定します。
6	ビデオ比率	ビデオウィンドウのアスペクト比を設定します。
7	分割モード	ビデオウィンドウの分割モードを設定します。

番号	パラメータ	説明
8	フルスクリーン	フルスクリーンモードに切り替えます。フルスクリーンモードを終了する場合は、Escキーを押すか、ビデオウィンドウを右クリックして、「フルスクリーンを終了」を選択します。
9	ビデオウィンドウ	ライブビューウィンドウを表示します。
10	ショートカット	エンコード形式、ストリーム情報、ショートカットキーを表示します。

図2-2 デバイスの右クリックメニューの機能

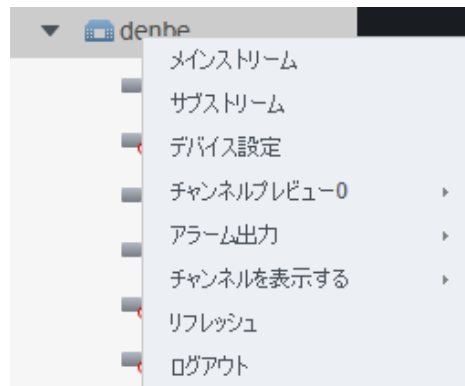


表2-2 デバイスの右クリックメニュー機能の説明

パラメータ	説明
<ul style="list-style-type: none"> ● メインストリーム ● サブストリーム 	ライブビューのストリームタイプを設定します。
デバイス設定	デバイスのWebページに移動し、Webページでデバイスパラメータを設定します。
アラーム出力	本装置に接続されている外部警報装置(煙警報器など)のアラーム連動動作をON/OFFします。 <ul style="list-style-type: none"> ● : アラームの連動動作は無効です。 ● : アラームの連動動作が有効になります。
リフレッシュ	チャンネル情報を更新します。
ログアウト	デバイスをログアウトします。

2.2 ライブビュー

モニタリング画面は、3つの方法でライブビューできます。

- ビデオチャンネルのライブビュー。ビデオチャンネルを対応するウィンドウにドラッグすると、モニタリング画面が表示されます。
- ツアープランを設定し、ツアープランを介してライブビューします。

- 現在のライブビュー画面をビューとして保存し、ビューを介してライブビューを保存します。

2.2.1 ビデオチャンネルを介したライブ表示

2.2.1.1 基本手順

2.2.1.2

ステップ1 「モニターソリューション」ページで「ライブビュー」を選択します。

ステップ2 リアルタイム監視画面をライブ表示します。

モニタリング画面は、2つの方法でライブビューできます。

- 組織ツリーでチャンネルを選択し、チャンネルをダブルクリックするか、対応するウィンドウにチャンネルをドラッグします。
- 組織ツリーでデバイスをダブルクリックして、デバイスのすべてのチャンネルを開きます。



ツアー中の場合は、ライブ視聴前にツアーを終了してください。




ステップ3 ビデオウィンドウをポイントすると、ビデオウィンドウの右上隅にショートカットキーが表示されます。









図2-3 ウィンドウのショートカットキー

表2-3 ウィンドウショートカットキーの説明

アイコン	パラメータ	説明
	ローカルレコード	アイコンをクリックすると、SmartPSSLiteは現在のビデオウィンドウでビデオの録画を開始します。もう一度アイコンをクリックすると、録画が停止し、ビデオがコンピュータに保存されます。

		<p>デフォルトの保存パスは”./Data/User/Record”です。 保存パスを変更する必要がある場合は、>システム設定 > ローカルパス > 録画パスを選択します。</p>
	ピクチャー	<p>現在のビデオウィンドウの画像をパソコンに画像として保存します(1枚ずつ)。デフォルトの保存パスは「./Data/User/Picture/Capture」です。保存パスを変更する必要がある場合は、 >システム設定 > ローカルパス >画像パスを選択します。</p>

NSK NSK NSK NSK NSK NSK

アイコン	パラメータ	説明
	オーディオ	対応するカメラのオーディオを有効または無効にします。
	音声通話	対応するカメラの音声通話機能を有効または無効にします。
	インスタントリプレイ	インスタント再生機能の有効/無効を設定します。再生時間は、  システム設定 > モニタリング設定 > インスタント再生時間で設定できます。
	拡大	アイコンをクリックし、マウスホイールをスクロールして画像を拡大/縮小します。
	ビデオを閉じます	アイコンをクリックしてビデオを閉じます。

ステップ4 ライブビューウィンドウを右クリックすると、右クリックメニュー機能が表示されます。






デバイスによって、サポートされるビデオウィンドウの右クリックメニュー機能が異なります。


図2-4 ビデオウィンドウの右クリック・メニュー機能



表2-4 ビデオウィンドウの右クリック・メニュー機能の説明

パラメータ	説明
ビデオを閉じる	現在のビデオウィンドウを閉じます。
全てのビデオを閉じる	全てのビデオウィンドウを閉じます。
音声開始	カメラのオーディオを有効または無効にします。
通話開始	カメラの通話を有効または無効にします。

パラメータ	説明
リモートインターコムをオン	カメラのリモートインターコム機能をオンまたはオフにします。
録画開始	現在のビデオウィンドウのビデオを録画しコンピュータに保存します。デフォルトの保存パスは ”./Data/User/Record”です。保存パスを変更する必要がある場合は、  システム設定 > ローカルパス > 特がパスを選択します。
画像キャプチャ	現在のビデオウィンドウの画像をパソコンに画像として保存します(1枚ずつ)。デフォルトの保存パスは 「./Data/User/Picture/Capture」です。保存パスを変更する必要がある場合は、  システム設定 > ローカルパス > 画像パスを選択します。
トリプルスナップショット	現在のビデオウィンドウの画像を、コンピュータ上の画像として保存します。SmartPSSLiteは、一度に3つの画像をキャプチャします。
インスタント再生開始	インスタント再生機能の有効/無効を設定します。再生時間は、  システム設定 > モニタリング設定 > インスタント再生時間で設定できます。
再生	「再生(Playback)」をクリックして、再生ページに切り替えます。詳しくは「3 再生ページ」をご覧ください。
魚眼取付モード	実際の環境に合わせて、魚眼カメラの設置モードを設定します。
魚眼視点	現在の魚眼カメラ監視画面の表示モード <ul style="list-style-type: none"> ● 天井取付: IP+1、2P、IP+2、IP+3、IP+4、IP+6、IP+8 ● 壁面取付: IP、IP+3、IP+4、IP+8 ● 平置き: IP+1、2P、IP+3、IP+4、IP+6、IP+8
マルチスクリーントラック	マルチ画面トラックを有効にすると、ビデオウィンドウは4つ(1+3モード)または6つ(1+5モード)のブロックに分割されます。一方のブロックはライブビュービデオの再生に使用され、もう一方のブロックは部分的な画面のズームインと再生に使用されます。「2.2.1.2マルチ画面トラック」を参照してください。
ウィンドウスケール	ビデオウィンドウのアスペクト比を設定します。
ストリーム種別	3つのストリームタイプの帯域幅:メインストリーム>サブストリーム1>サブストリーム2。ストリームが占有する帯域幅が小さいほど、ビデオの再生がスムーズになります。
画像調整	画像の明るさ、コントラスト、彩度、色相を調整して、最適な画像効果を実現します。

パラメータ	説明
IVSオーバーレイ	<p>スマートモーション検出以外のAIルールとオブジェクトボックスを有効にします。デバイスがIVS検出を有効にしている場合、SmartPSSLiteがスマートオーバーレイを有効にすると、ライブビュー中にオブジェクトボックスまたはAIルールが表示されます。</p> <p></p> <ul style="list-style-type: none"> ● 設定されたチャンネルのみがこの機能を有効にできます。 ● デフォルトでは、SmartPSSLiteにはAIルールとオブジェクトボックスは表示されません。 ● 設定は、再生とライブの録音に対して有効になります。
フルスクリーン	<p>ビデオウィンドウをフルスクリーンモードに切り替えます。フルスクリーンモードを終了する場合は、Escキーを押すか、ビデオウィンドウを右クリックして、「フルスクリーンを終了」を選択します。</p>

2.2.1.3 マルチスクリーントラック

マルチスクリーントラックを有効にすると、ビデオウィンドウは4つ(1+3モード)または6つ(1+5モード)のブロックに分割されます。一方のブロックはライブビュービデオの再生に使用され、もう一方のブロックは部分的な画面のズームインと再生に使用されます。

ステップ1 「モニターソリューション」ページで「ライブビュー」を選択します。

ステップ2 リアルタイム監視画面をライブ表示します。

ステップ3 ビデオウィンドウを右クリックし、「マルチスクリーントラックを選択してから、モードを選択します。

ここでは、1+3モードを例にしています。1+3モードを選択すると、3つのブロックがビデオウィンドウに表示されます。これらのブロックは、ウィンドウのさまざまな部分をズームインおよび再生するために使用されます。マウスホイールをスクロールして、画像を拡大/縮小できます。ブロックをクリックしてドラッグし、ブロックを別の場所に移動します。

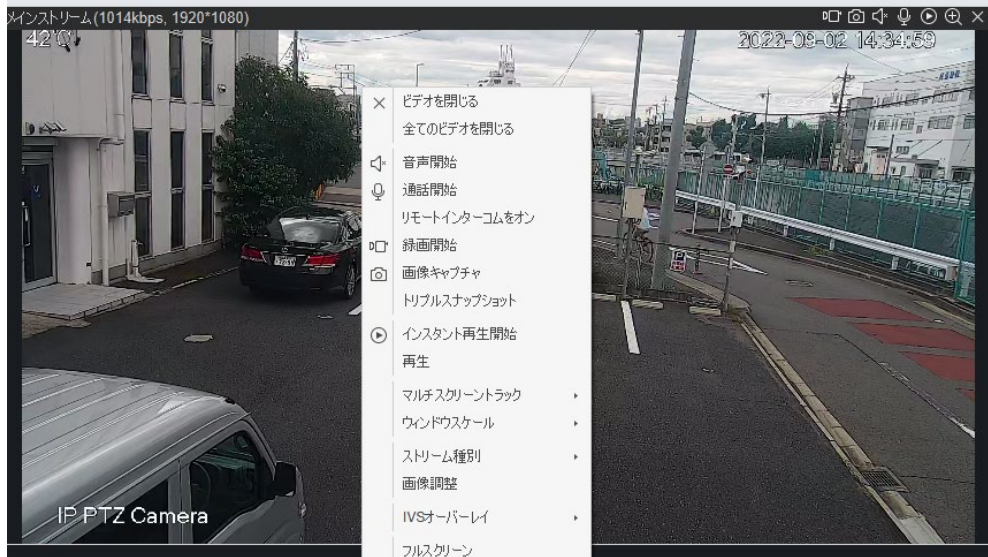
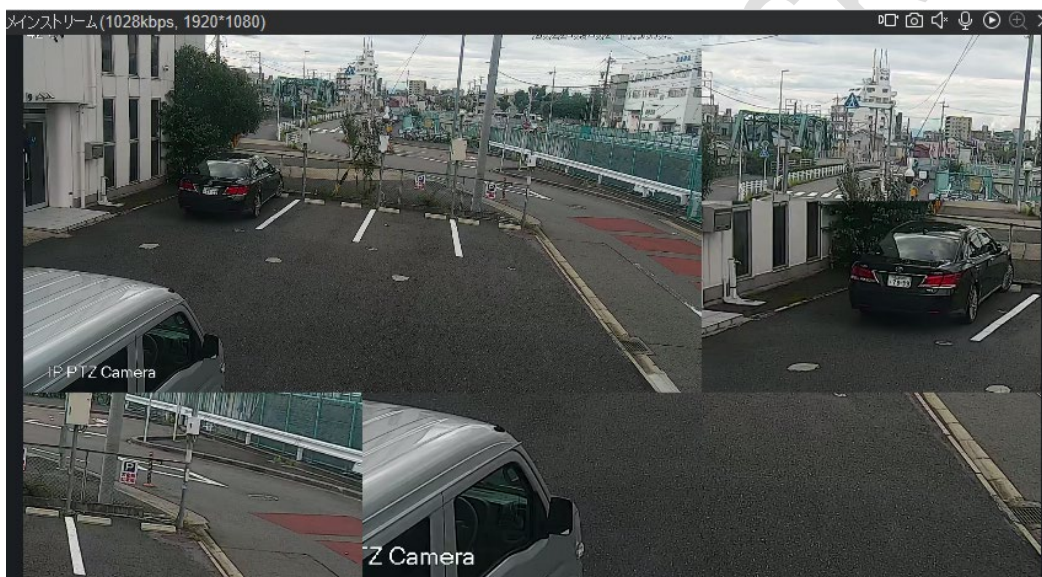


図2-5 マルチスクリーントラック

図2-6 1+3モード



マルチスクリーントラックを停止する必要がある場合は、ビデオウィンドウを右クリックし、「マルチスクリーントラック」を選択してから、「ノーマルモード」を選択します。


2.2.2 ライブツアープラン

ツアープランを設定し、プランに合わせてモニタリング画面をライブビューできます。スケジュールされたツアーライブビューと手動でのツアーライブビューをサポートしています。

- スケジュールされたツアーライブビュー:タスクプランとツアー開始時間を設定すると、SmartPSSLiteは設定された期間中にスケジュールされたツアーを自動的に開始します。
- ライブビューを手動でツアーする:タスクプランを設定し、タスクに従ってツアーを手動で開始します。

ステップ1 「モニターソリューション」ページで「ライブビュー」を選択します。

ステップ2 ツアープランを設定します。

- 1) 画面下部のをクリックし、ポップアップページ内を+ Addクリックします。計画をダブルクリックして、タスク名を構成します。

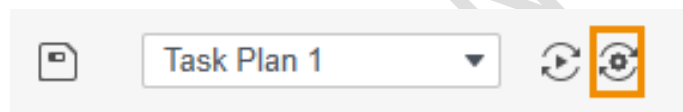


図2-7 ツアープランの追加(1)

図2-8 ツアープランの追加(2)



- 2) ツアータスクを設定します。右側+をクリックし、ポップアップページでタスク名とタスク時間を設定します。組織ツリーのチャンネルを対応するウィンドウにドラッグし、「滞在時間」と「ストリーム種別」を設定して、「OK」をクリックします。他のツアータスクを追加するには、+をクリックします。



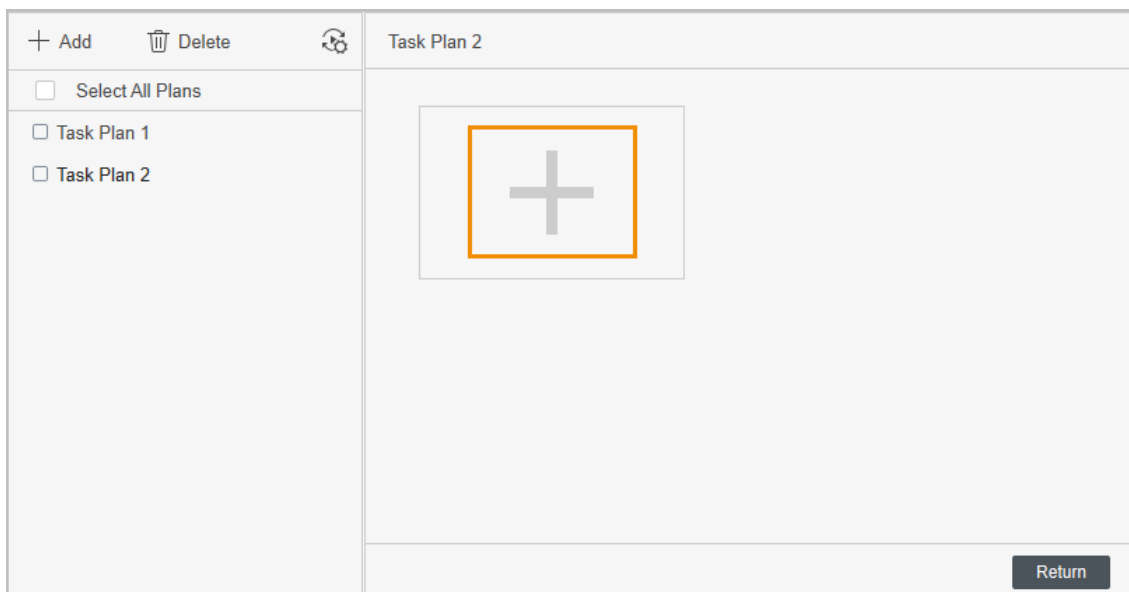
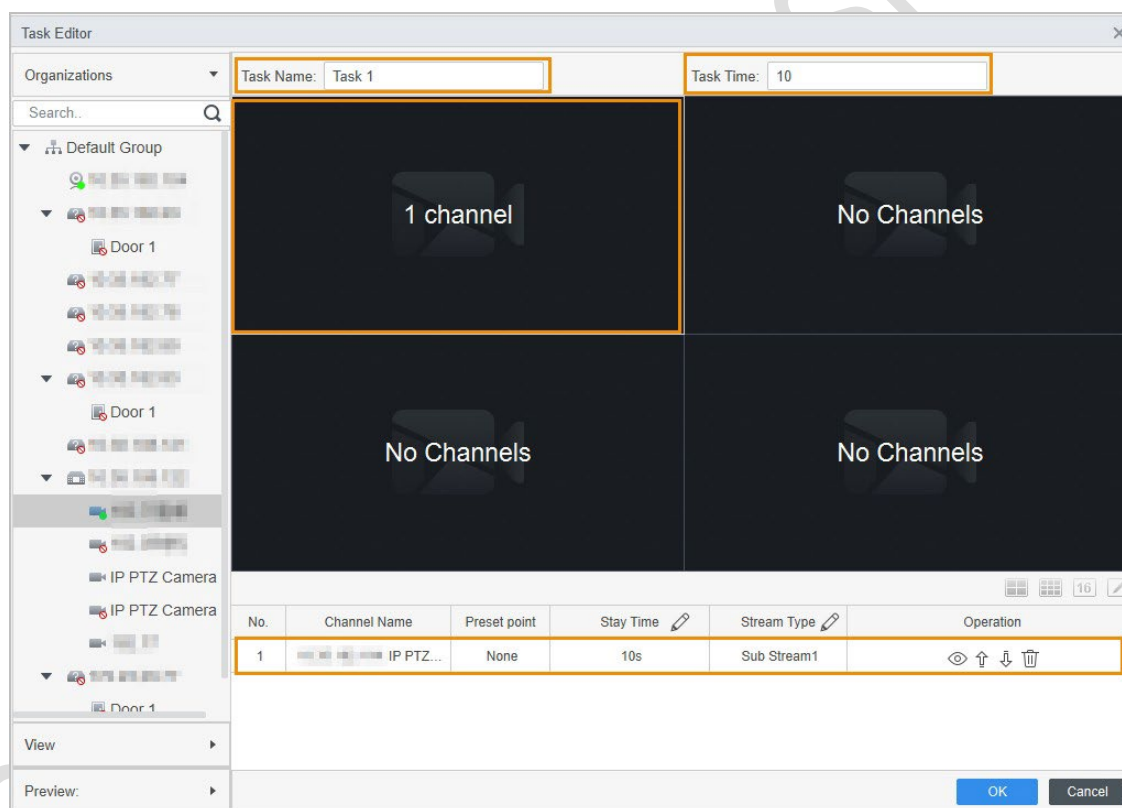


図2-9 ツアープランの追加(3)

図2-10 ツアープランの設定



3) ツアースケジュールの設定を行います。🔄をクリックし、ポップアップページでスケジュールされたツアー設定を構成します。日帰りツアー、週次定期ツアーをサポートしています。ここでは、週次ツアーを例にしています。

週計画を選択し、タスク計画、開始時刻と終了時刻を選択して、追加をクリックし、保存をクリックします。

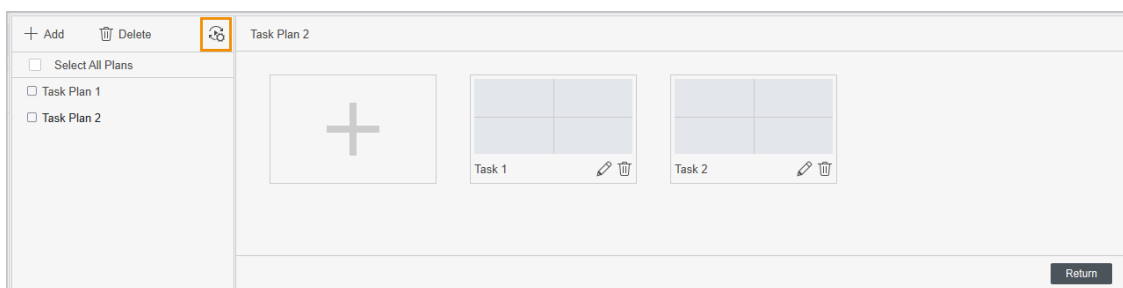


図2-11 ツアースケジュール設定の構成(1)

図2-12 ツアースケジュール設定の構成(2)



4) 「戻る」をクリックすると、ライブビューページに移動します。

ステップ3 スケジュール・ツアーの右側 をクリックすると、スケジュールツアーライブビューが有効になります。

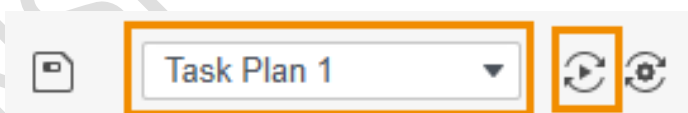
スケジュールされたツアーを有効にすると、SmartPSSLiteは設定された期間中にスケジュールされたツアーを自動的に開始します。

図2-13 スケジュール・ツアーの有効化



ステップ4 ツアープランを選択し、ライブビューページ をクリックすると、手動でツアーライブビュー機能が有効になります。

図2-14 手動でのツアーライブビューの有効化



2.2.3 ビューを介したライブ表示

ビューには、リアルタイムのビデオウィンドウ分割と再生が記録されます。これらのパラメータをライブビュープランとして保存できます。これらのパラメータが後で必要になった場合は、それらをすばやく採用できます。ビューが

生成されたビューからライブビューを表示できます。

ステップ1 「モニターソリューション」ページで「ライブビュー」を選択します。

ステップ2 新しいグループを作成します。

- 1) 表示をクリックします。
- 2) 「新しいグループ」をクリックし、ポップアップダイアログボックスにグループ名を入力します。
- 3) 保存をクリックします。



2-15 新しいグループの作成

ステップ3 ビューを作成します。


- 1) 組織ツリーのビデオチャンネルをライブビューウィンドウにドラッグし、ビデオウィンドウの下部にあるをクリックします。
- 2) ポップアップダイアログボックスで表示名とグループ名を設定し、監視計画に保存するかどうかを選択します。
モニターグループに保存すると、ビューに対応するビデオチャンネルがタスクプランに自動的に追加されます。
- 3) OKをクリックします。
グループの下に新しいビューが生成されます。

図2-16 ビューの作成



ステップ4 ビューリストでビューをダブルクリックすると、SmartPSSLiteはビューを介してビデオのライブビューを開始します。

2.3 PTZ設定

追加したカメラにPTZ機能がある場合は、以下のPTZコントロールパネルからカメラを制御できます。。

2.3.1 プリセットポイントの設定

プリセットポイントとは、デバイスの現在の状況下で、カメラが位置パラメータをPTZ水平角度、傾斜角度、レンズ焦点距離として保存できることを意味します。


ステップ1 「モニターソリューション」 ページで「ライブビュー」を選択します。

ステップ2 PTZ機能が設定されている機器をモニタウインドウにドラッグ&ドロップします。

ステップ3 組織ツリーの「PTZ」 タブをクリックし、カメラの対応する監視画面をクリックします。

PTZコントロールパネルがアクティブになります。

ステップ4 プリセットポイントを追加します。

- 1) PTZコントロールパネルの「拡張」をクリックし、「プリセットポイント」を選択して、をクリックします。
- 2) 図2-17 プリセットポイントの追加




- 3) PTZ方向ボタンをクリックして、PTZを目的の位置に移動します。
- 4) ドロップダウンリストからプリセットポイントを選択し、プリセットポイント名を設定してをクリックします。

図2-18 プリセットポイントの設定



ステップ5 プリセットポイントを呼び出します。ドロップダウンリストからプリセットポイントを選択します。📍をクリックすると設定した位置にすばやく移動します。

図2-19 コールプリセットポイント



2.3.2 ツアーの設定

ツアーとは、プリセットされたポイントを自動ツアーグループに配置して、プリセットされたポイントに従ってカメラを前後にすばやく自動的に移動させることです。

前提条件

あらかじめ2つ以上のプリセットポイントを追加しておいてください。「2.3.1 プリセットポイントの設定」を参照してください。

手順

ステップ1 「モニターソリューション」ページで「ライブビュー」を選択します。

ステップ2 PTZ機能が設定されている機器をモニタウインドウにドラッグ&ドロップします。

ステップ3 組織ツリーの「PTZ」タブをクリックし、カメラの対応する監視画面をクリックします。PTZコントロールパネルがアクティブになります。

ステップ4 ツアーを追加します。


- 1) PTZコントロールパネルの「拡張」をクリックし、「ツアー」を選択して、をクリックします。



図2-20 ツアー機能の設定

- 2) ツアーIDを選択し、ツアー名を入力します。
「プリセットポイント」をダブルクリックしてプリセットポイントを設定し、「時間(秒)」をダブルクリックして滞在時間を設定します。
- 3) **+**をクリックして、他のプリセットポイントを追加および設定します。
- 4) OKをクリックします。

図2-21 ツアーの追加

ツアーID	ツアー名
1	

プリセットポイント	時間(秒)	操作
1 プリセット1	10	+ x
1 プリセット1	10	+ x

OK キャンセル

ステップ5 ツアーを開始します。PTZコントロールパネルでツアーを選択し、有効にする必要があるツアー名を選択します。クリックすると、設定したプリセットポイント間のツアーが開始されます。🔌

図2-22 ツアーの開始



2.3.3 パンの設定

パンとは、一定の速度でPTZカメラを360° 連続的に回転させることを意味します。

ステップ1 「モニターソリューション」ページで「ライブビュー」を選択します。

ステップ2 PTZ機能が設定されている機器をモニタウインドウにドラッグ&ドロップします。

ステップ3 組織ツリーの「PTZ」タブをクリックし、カメラの対応する監視画面をクリックします。PTZコントロールパネルがアクティブになります。

ステップ4 PTZコントロールパネルの「拡張」をクリックし、「パン」を選択します。

ステップ5 クリックすると、一定の速度で連続360° 回転を開始します。🔌

📖 🔌 クリック、カメラの回転が止まります。

図2-23 パンの設定



2.3.4 スキャンの設定

スキャンとは、一定の水平方向の範囲内で、カメラが一定の速度で前後にスキャンすることを意味します。

ステップ1 「モニターソリューション」ページで「ライブビュー」を選択します。



ステップ2 PTZ機能が設定されている機器をモニタウインドウにドラッグ&ドロップします。


ステップ3 組織ツリーの「PTZ」タブをクリックし、カメラの対応する監視画面をクリックします。PTZコントロールパネルがアクティブになります。

ステップ4 PTZコントロールパネルの「拡張」をクリックし、「スキャン」を選択します。

図2-24 スキャンの設定



ステップ5 PTZ方向ボタンをクリックしてPTZを左方向に回転させ、をクリックして左の限界を設定します。続けてPTZを右に回転させ、をクリックして右の限界を設定します。

ステップ6 をクリックしてスキャンを開始すると、PTZは設定された2つの範囲間を回転します。

2.3.5 パターンの設定

ツアリングパターンとは、ユーザーの手動操作をPTZに継続的に記録し、カメラのレンズの移動パターンを記録できることを意味します。カメラは、記録を開始する位置を開始点とし、あらかじめ設定された移動パターンに従って自動的に前後に移動します。


ステップ1 「Monitor Solution」ページで「Live View」を選択します。


ステップ2 PTZ機能が設定されている機器をモニタウインドウにドラッグ&ドロップします。

ステップ3 組織ツリーの「PTZ」タブをクリックし、カメラの対応する監視画面をクリックします。

PTZコントロールパネルがアクティブになります。

ステップ4 パターンを追加します。

- 1) PTZコントロールパネルの「その他の機能」をクリックし、「パターン」を選択します。パターンを設定する必要がある番号を選択し、をクリックします。

パターン機能を有効にすると、アイコンがに変わります。

- 2) PTZ方向ボタン、ズームイン/アウトボタンをクリックして、カメラの移動パターンを設定します。


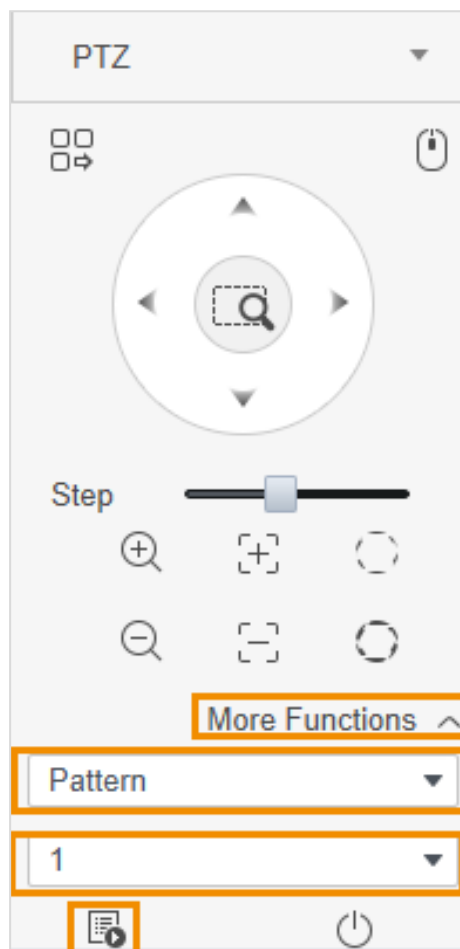
3)  クリックしてパターン設定を完了します。

図2-25パターンの追加




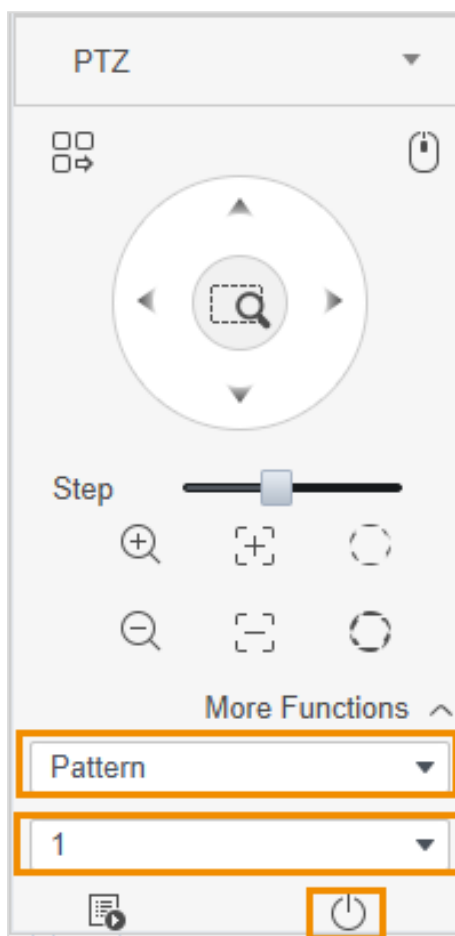
ステップ5 開始パターン。PTZコントロールパネルでPatternを選択し、パターンを設定する必要がある番号を選択します。クリックすると、定義した移動パターンに従ってカメラが自動的に移動します。 

図2-26開始パターン



2.3.6 ワイパーの設定

ワイパー機能を有効または無効にすることができます。

ステップ1 「Monitor Solution」ページで「Live View」を選択します。

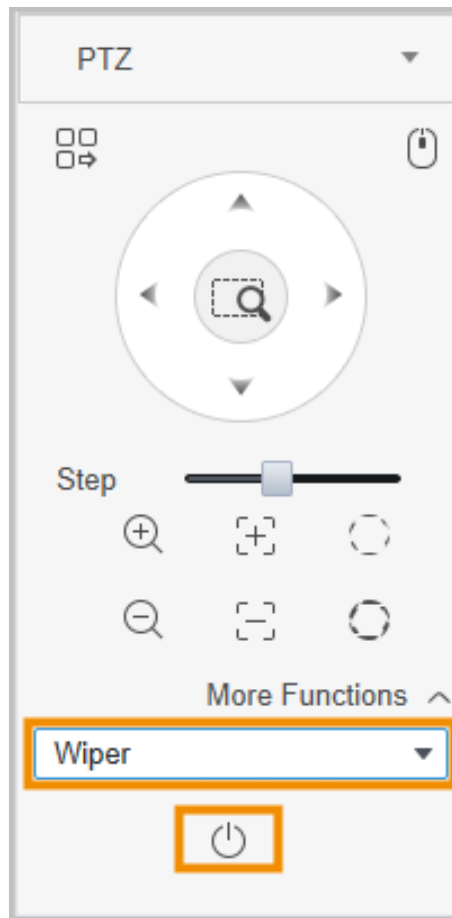
ステップ2 PTZ機能が設定されている機器をモニタウインドウにドラッグ&ドロップします。

ステップ3 組織ツリーの「PTZ」タブをクリックし、カメラの対応する監視画面をクリックします。

PTZコントロールパネルがアクティブになります。

ステップ4 PTZコントロールパネルの「その他の機能」をクリックし、「ワイパー」を選択します。クリックするとワイパー機能が有効になり、クリックするとワイパー機能が無効になります。🔌

図2-27ワイパー機能



2 再生ページ

パソコンや本体に保存されている動画を検索して再生します。

3.1 基本操作

3.1.1 動画を再生します

ステップ1 モニターソリューションページで、再生 > 機器を選択します。





ステップ2 「機器」または「ビュー」リストで選択し、「録画」をクリックします。ビデオ・フィルタ条件を設定し、「検索」をクリックします。検索した動画のビデオウィンドウがで表示されます。

表3-1 ビデオ・フィルタ条件の説明

パラメータ	説明
録画種別	再生する必要があるビデオの種類を選択します。
ストリーム種別	ストリーム種別を設定する方法は、デバイスによって異なります。
時刻	再生に必要な期間を設定します。ポイント付きの日付はレコードがあることを意味します。

ステップ3 本機では、2つの方法で動画を再生できます。

- 方法1: で表示されているウィンドウをクリックし、下部のをクリックしてビデオを再生します。
- 方法2: <クリックするとビデオウィンドウの右側に、デバイスチャンネルで検索されたすべてのビデオファイルが表示されます。再生したい動画ファイルをダブルクリックすると、対応する動画が自動的に再生されます。

ステップ4 動画をローカルにダウンロード:ファイルリストで動画を選択するか、をクリックしてすべての動画ファイルを選択します。

- ☐ をクリックし、プロンプトに従ってローカルにビデオをダウンロードします。

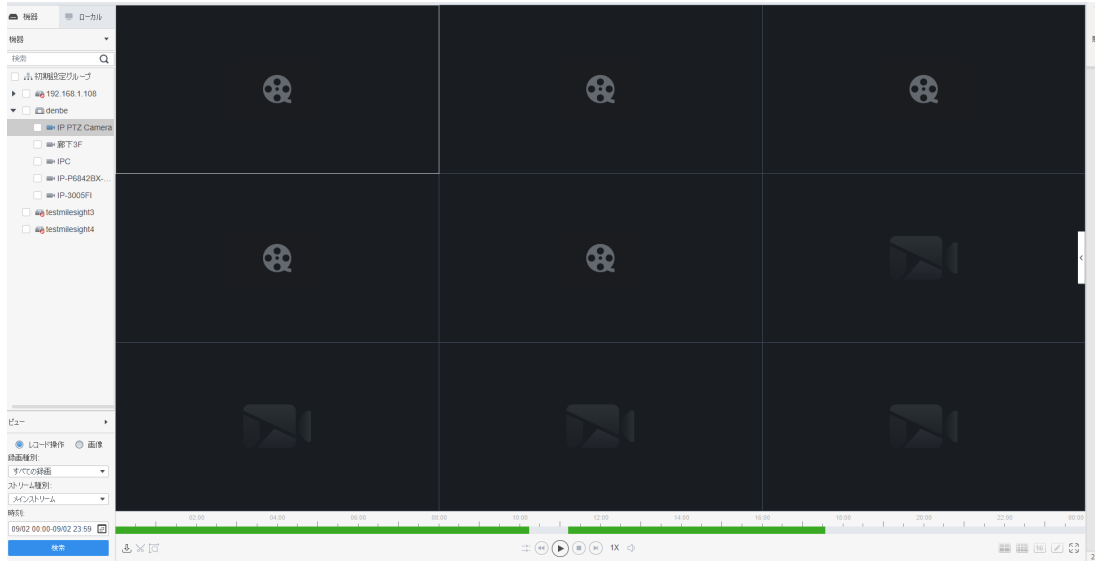


図3-1 再生ページ

表3-2 再生ページアイコンの説明

アイコン	パラメータ	説明
	エクスポート	エクスポートの進行状況を表示します。
	タイムクリップ	一定期間のビデオをクリップしてダウンロードします。詳細は「3.2.2 動画の切り出しと取り込み」を参照してください。
	スマート検索	監視画面の特定の領域の動的検出分析。検知領域に動画がある動画のみ再生できます。詳細は「3.2.3 スマートサーチ」を参照してください。
	同期	再生を同期します。
	停止/一時停止	停止/一時停止します。
	再生	再生します。
	フレーム単位再生	フレームを再生します
	再生速度	ビデオ再生速度を加速/減速します。
	タイムライン	ビデオの期間を表示します。ビデオ再生中にタイムラインをドラッグすると、対応するタイムポイントでビデオを再生できます。
	4 分割	4つのウィンドウに分割します。
	9 分割	9つのウィンドウに分割します。
	16 分割	16のウィンドウに分割します。
	カスタム分割	カスタムウィンドウ分割。
	フルスクリーン	モニタウィンドウを全画面表示します。

3.1.2 パソコンで動画を再生します

ステップ1 モニターソリューションページで、再生 > ローカル > レコード操作を選択します。

ステップ2 パソコンで動画を再生するには、2つの方法があります。

- 方法1: 録画リストで再生する必要があるビデオをダブルクリックすると、右側のウィンドウでビデオの再生が開始されます。
- 方法2: 録画リストで再生する必要があるビデオを選択し、右側のウィンドウの下部にある▶をクリックします。

3.2 その他の操作

3.2.1 スナップショットの表示

デバイスとコンピュータのスナップショットを表示します。

3.2.1.1 スナップショットの確認

ステップ1 モニターソリューションページで、再生 > 機器を選択します。

ステップ2 機器ツリーで表示するデバイスチャネルを選択します。

ステップ3 「画像」を選択し、期間を設定して「検索」をクリックします。

スナップショットが右のウィンドウに表示されます。



図3-2 デバイスでのスナップショットの表示

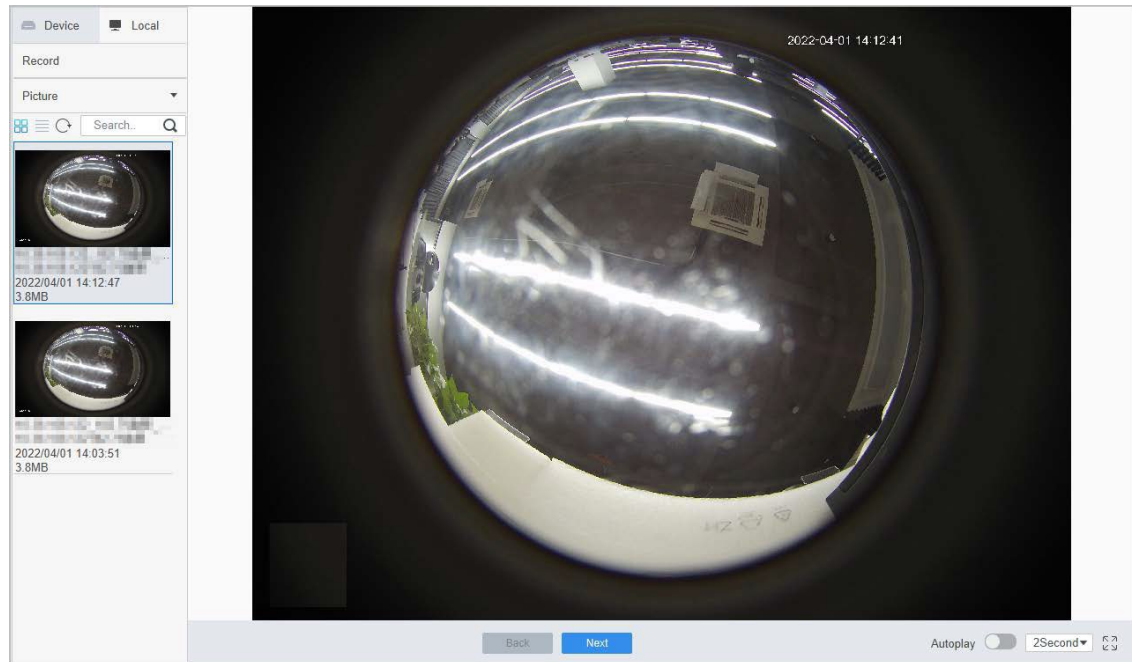
3.2.1.2 コンピュータでのスナップショットの表示

ステップ1 モニターソリューションページで、再生 > ローカル > 画像を選択します。

ステップ2 画像一覧で静止画を選択すると、右側に静止画の詳細が表示されます。



図3-3 コンピュータ上のスナップショットの表示



3.2.2 動画のクリッピングとダウンロード

手順

ステップ1 モニターソリューションページで、再生 > 機器を選択します。

ステップ2 デバイス上のビデオを再生します。

ステップ3 ビデオをクリップしてダウンロードする必要があるウィンドウをクリックし、ページの左下%をクリックします。

ステップ4 タイムラインの左側の赤い四角をクリックしてドラッグし、開始時間を設定します。右側の赤い四角をクリックしてドラッグし、終了時間を設定します。

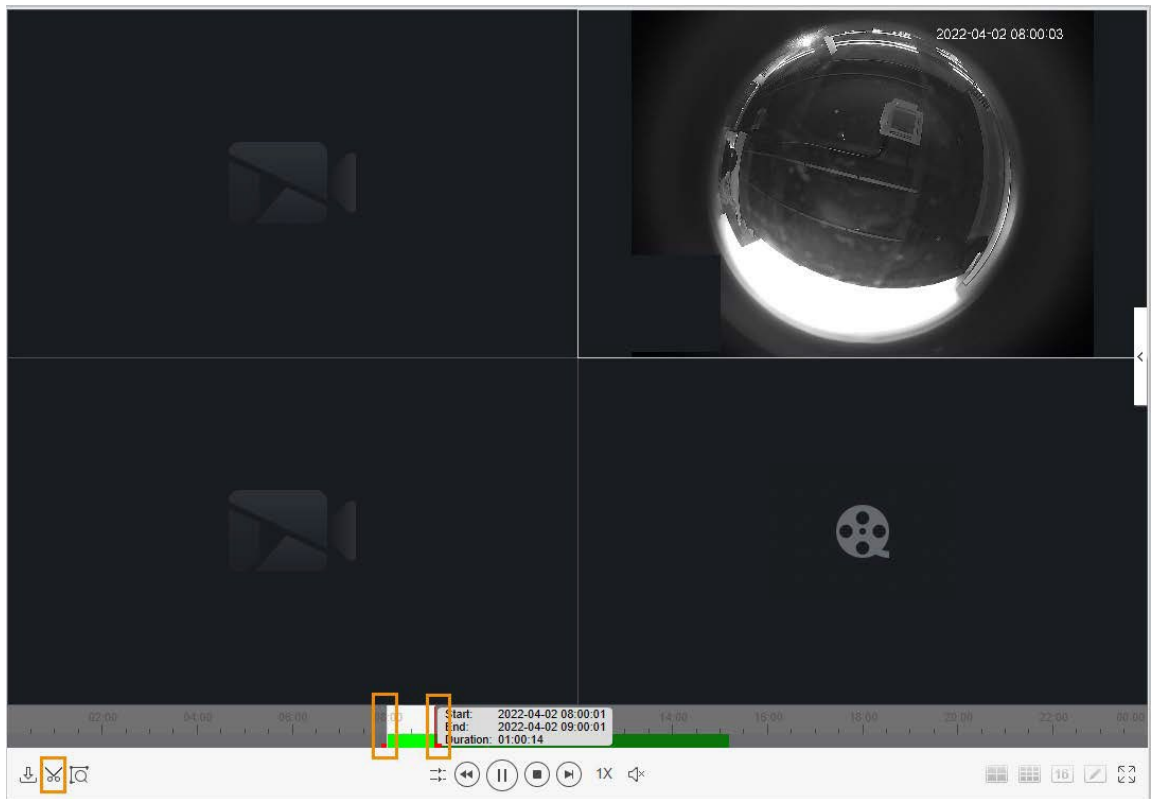
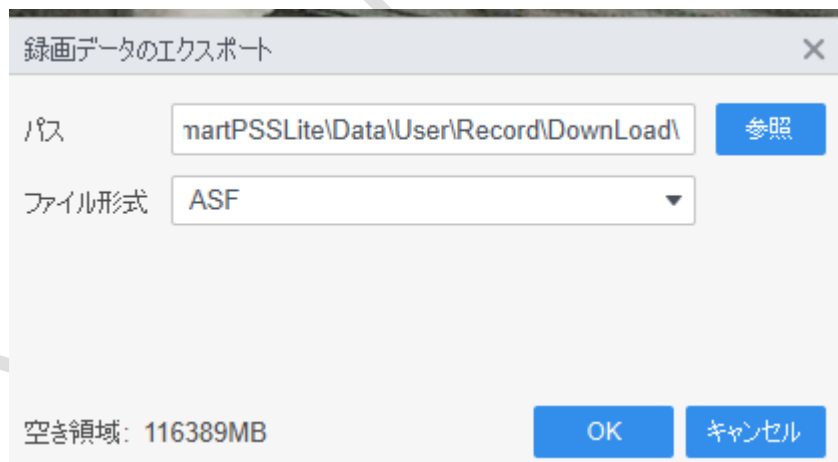


図3-4 クリップビデオ

ステップ5 もう一度✂️をクリックし、ポップアップダイアログボックスでエクスポートパスとエクスポート形式を設定します。

ステップ6 OKをクリックします。

図3-5 エクスポートパスとエクスポート形式の設定



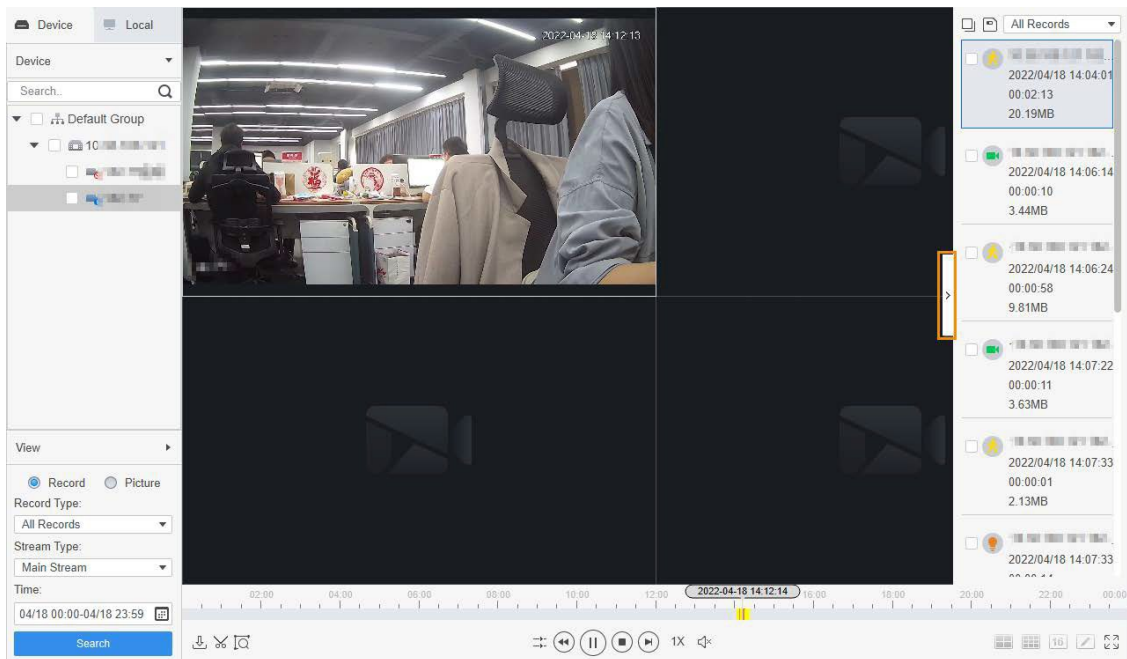
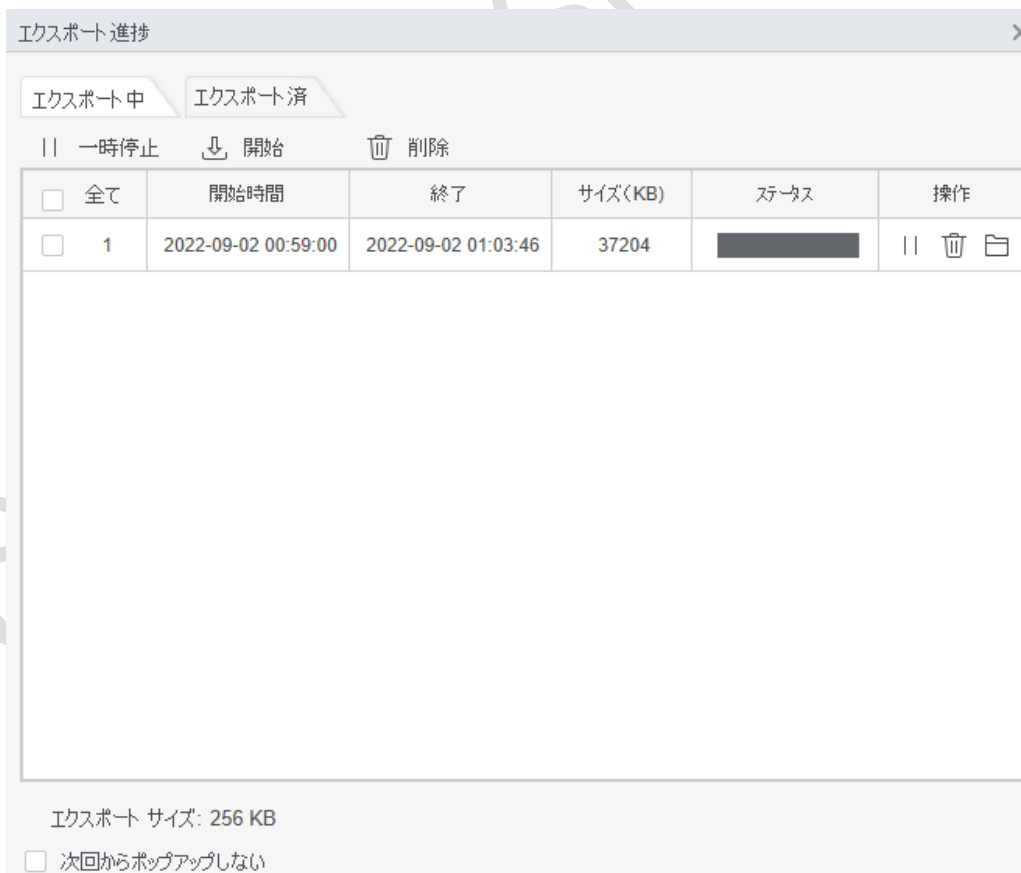


図3-6 ビデオのダウンロード

関連操作

書き出しの進行状況は、ポップアップダイアログボックスで確認するか、ウィンドウ下部のをクリックします。↓

図3-7 エクスポートの進行状況



3.2.3 スマート検索

スマート検索は、監視画面上の特定領域の動的検出分析です。検知領域に動画がある映像のみ再生できます。※あらかじめスマート検索機能に対応した機器を追加しておく必要があります。それ以外の場合、結果は無しになります。

ステップ1 モニターソリューションページで、再生 > 機器を選択します。

ステップ2 デバイス上のビデオを再生します。「3.1.1 動画を再生する」を参照してください。

ステップ3  クリック

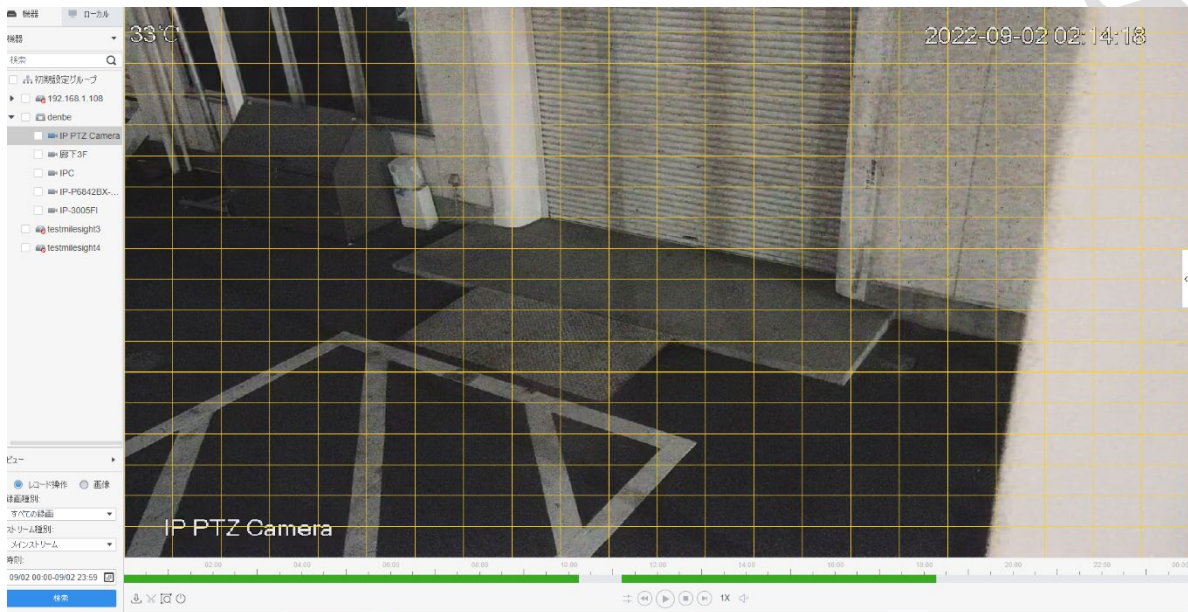



図3-8 スマート検索


ステップ4 小さな正方形をクリックして、検知領域を選択します。一度に複数の正方形を選択できます。画面上でマウスボタンをドラッグして、検知領域を描くこともできます。




正方形をもう一度クリックすると、選択がキャンセルされます。

ステップ5 再度クリックすると、スマート検索分析が開始されます。

- 検索結果がある場合、ダイナミックフレームはタイムラインに紫色で表示されます。
- 検索結果がないか、選択した領域がスマート検索をサポートしていない場合、SmartPSSLiteはスマート検索結果がないことを示します。

ステップ6 クリックすると、ダイナミックフレームが再生されます。

ステップ7 クリックしてスマート検索を終了します。

3.2.4 複数の動画再生を同期します

複数の動画を同時に再生するように設定できます。




前提条件

同期再生の時点で、各デバイスにビデオがあることを確認してください。

手順

ステップ1 モニターソリューションページで、再生 > 機器を選択します。

ステップ2 ビデオを検索します。

- 1) 「機器」リストで再生する必要のあるデバイスを選択し、「レコード操作」をクリックします。ビデオ・フィルタ条件を設定し、「検索」をクリックします。
検索した動画のビデオウィンドウがで表示されます。
- 2) で表示されているビデオウィンドウをクリックし、下部のをクリックします。SmartPSSLiteは、ツリーで選択されたデバイスチャンネルのビデオの再生を開始します。

ステップ3 をクリック

システムは、同じタイムポイントで他のチャンネルのビデオを自動的に再生します。